

船舶事故調査報告書

令和3年4月28日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	令和2年10月23日 14時00分ごろ
発生場所	山口県宇部港 宇部港西防波堤灯台から真方位285°1,340m付近 (概位 北緯33°56.4 東経131°13.1)
事故の概要	プレジャーヨット Infinite blueは、右旋回中、主機が停止して航行不能となり、浅所に乗り揚げた。
事故調査の経過	令和2年11月5日、主管調査官（門司事務所）を指名原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーヨット Infinite blue、5トン未満（長さ8.53m）
船舶番号、船舶所有者等	242-15051福岡、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、一級小型
負傷者	なし
損傷	舵板に擦過傷、舵軸に曲損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北西、風速 約5m/s、視界 良好 海象：波高 約1.5m、潮汐 ほぼ満潮時
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、波高約1.5mの状況下、宇部港沖を西進中、主機が停止した。</p> <p>船長は、主機を再始動したところ排気管から白煙が上がっていたので予定を変更して宇部港のマリーナに向かうこととした。</p> <p>本船は、船長がマリーナに連絡を取る目的で通航量の少ない宇部港の興産大橋北側海域で右旋回中、主機が再び停止して今度は再始動できずに航行不能となり、風に圧流されて沿岸の浅所に乗り揚げた。</p> <p>本船は、マリーナにえい航され、機関整備業者が点検したところ、燃料タンク内に海水が混入していることが判明した。</p> <p>本船は、令和2年9月17日に中古で購入され、香川県高松市高松港から福岡県博多港まで回航する途中であり、各寄港地を出港する際、船長が燃料タンク内のドレンを排出していた。</p> <p>船長は、中古で購入した際、燃料取入れ口のパッキンの点検を行っており、異常を認めていなかった。</p> <p>船長は、出港前に燃料タンク内のドレンを抜いているので、徳山下松港で燃料を搭載した際、燃料取入れ口の蓋の締付けが弱く、同蓋が振動等で緩み、航行中に甲板上を覆う波の海水が同口から燃料タンクに浸入したと、本事故後に思った。</p> <p>本船の喫水は、センターボード下端まで約2mであった。</p>
分析	本船は、燃料取入れ口の蓋の締付けが弱く、同蓋が振動等で緩んだ

	<p>状態で航行を続けたことから、波が甲板を覆った際、同取入れ口から海水が浸入して燃料タンク内に溜まり、同タンク内の海水が主機の燃料系統に混入し、主機が停止して航行不能となり、風に圧流されて沿岸の浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、燃料取入れ口の蓋の締付けが弱く、同蓋が振動等で緩んだ状態で航行を続けたため、波が甲板を覆った際、同取入れ口から海水が浸入して燃料タンク内に溜まり、同タンク内の海水が主機の燃料系統に混入し、主機が停止して航行不能となり、風に圧流されて沿岸の浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃料タンク内に海水が浸入しないよう、定期的に燃料取入れ口のパッキンの状態を点検するとともに、出港の際には同取入れ口の蓋の閉まり具合を確認すること。